

のりもののことを しょうかいしよう 「じどう車くらべ」

本単元で育成する資質・能力 思考力・伝え合う力

1 研修テーマ 「児童の『なぜ?』を生かし、対話を通して考えを深め、感想をもつための工夫」

2 日時 令和5年11月15日(水)2校時

3 学年 第1学年 男子10名 女子9名 計19名

4 単元名 「じどう車くらべ」(光村図書 こくご 一 下 ともだち)

5 単元観

本単元は、主として小学校学習指導要領(平成29年告示)国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕C「読むこと」の指導事項「(1)オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を受けて設定している。「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ」ことができる力を育成するには、文章の構造と内容を捉え、自分の既有的知識や体験と結び付けて解釈し、文章の内容に対して児童一人一人が思いをもったり、自分の考えをまとめたりすることが必要となる。

本単元で扱う教材文「じどう車くらべ」は、児童にとって身近な「自動車」を題材とした説明的な文章である。文章の構成は「問い」と「答え」、「しごと」と「つくり」という基本文型の繰り返しとなっており、全体構造が捉えやすい。また、題材が身近な「乗り物」であるため、文章の内容を自分のもつ知識や体験と結び付け、思いをもつことに適している教材である。

6 児童観

本学級の児童は、1学期から、「読むこと」の学習では、初読の感想や疑問を交流する活動を繰り返し行ってきているため、文章に対して、簡単な感想や疑問をもちながら読み進めることで、内容の理解を深めることができる児童が多い。また、意欲的に読書を行っており、図鑑などの読み物以外の本にも興味をもっている。しかし、自分の思いを言語化することが難しく、分かったことなどをまとめることに慣れていない。また、学習経験がなく、文章の内容を捉え、自分なりの言葉で解釈したことをまとめ、自分の知識や体験と関連付けながら感想をもつことは難しい。

これまでに説明的な文章を扱う「くちばし」や「うみのかくれんぼ」の学習を通して、「問い」に対する「答え」という構造になっていることや、時間的な順序を考えながら内容の大体を読む力を身に付けてきた。一方で、問いに対する答えを説明する各段落で、あげられる事柄の順序には一定の決まりがあることを意識して読むことについてはまだ課題が見られる。

7 指導観

指導に当たっては、教材文だけでなく、一般図書も用いることで、身に付けさせたい力を確実に身に付けさせることをねらう。単元の終末には、学校図書館を活用し、「じどう車くらべ」で扱った自動車以外の乗り物についても興味を広げ、簡単な感想や疑問をもちながら読み進めることで、内容の理解を深めることができる活動を行う。また、調べてまとめるだけでなく、調べたことを紹介したり、感想を伝え合ったりする活動を行うことで、児童の「学んでよかった」という実感に繋げていきたい。そこで、以下の3つの工夫を行っていく。

○説明的な文章の構造を捉える工夫

教材文においては、「しごと」と「つくり」がどの自動車も同じ順番で書かれていることに気付かせるために、本文を色分けし、視覚的に把握できるようにする。また、3つの事例の構造を比較し、どの事例においても同じ順番で書かれてあることに気付けるようにする。

○共通点や相違点を比較する工夫

3つの事例の自動車の「しごと」と「つくり」について、文章からの情報だけでなく、挿絵も関連付けながら丁寧に押さえることで、「しごと」と「つくり」のつながりを理解させるとともに、複数の事例を比較する視点を養いたい。その自動車にしかない「つくり」に着目させ、他の自動車にそのつくりが必要かどうかを考えさせたり、その「つくり」がどうしても必要なのかを「しごと」と関連させて考えさせたりすることで、「しごと」のための「つくり」になっていることに気付けるようにする。

○並行読書の活用

本学級の児童は、普段家庭で乗っている乗用車であっても、「しごと」や「つくり」を意識したことのある児童はほとんどいないと考えられる。そのため、町立図書館と連携をし、乗り物についての図書を自由に読めるようにし、様々な自動車に対しての興味関心を引き出し、意欲的に乗り物について調べ、紹介したいという思いをもたせるようにする。また、「考え聞かせ」を行い、問いかけながら読むことで、自動車に対する興味を高めるとともに、自動車の働きとつくりの関係性に気付くなど、他の自動車のつくりについて考える際の視点を養うことができるようにする。

7 本単元で設定した目標

○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。

[知識及び技能] (2) ア

○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) ウ

○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) オ

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

8 単元の評価基準

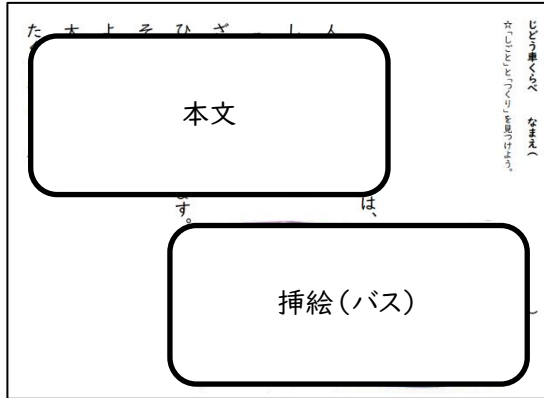
乗り物について書かれた本や文章を読み、分かったこと、思ったことを書きまとめることを通した指導 【言語活動例 ウ】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。C(1)オ	・進んで、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習の見通しをもって、感じたことやわかったことを文章にまとめようとしている。

評価規準【「おおむね満足できる」状況(B)】

「努力を要する」状況(C)と判断した児童への指導の手立て

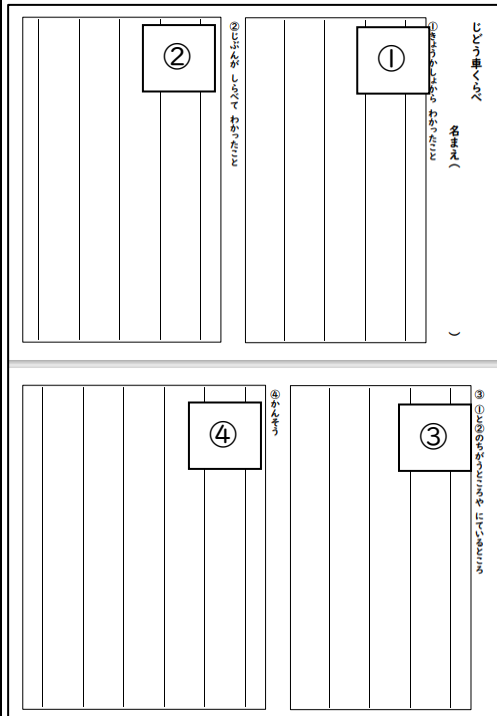
「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。

ワークシート(2~5時)



正しい部分に線が引かれている。
色分けが正しくできている。

ワークシート(11時)



「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。

・乗り物の「やくわり」と「しごと」を明確にさせる。
→ワークシートの活用
色分けをし、視覚的に比較できるようにする。
→情報を絞ることで読み取りやすくする。

・乗り物の「やくわり」と「しごと」を比較させる。

・自分の調べた乗り物について、一番驚いたところを聞き出す。
・教科書に載っていた自動車の特徴と、自分が調べた自動車を比較させる。

思考・判断・表現

① きょうかしょから わかったこと

クレーン車は、おもいものをつり上げるしごとをしている。そのために、じょうぶなうでが、のびたりうごいたりするように、つくってある。

② じぶんが しらべて わかったこと

ぼくのいえの車は、たくさんの人を乗せて運ぶことができる。そのために、ざせきがたくさんある。

③ ①や②のちがうところや いているところ

ぼくのいえの車は、おもいものをつり上げるひつようがないから、じょうぶなうではついていない。クレーン車は、たくさん人をのせるひつようがないから、ざせきのかずは、すくない。だけど、どちらの車にも、しごとがある。

④ かんそう

車には、いろいろなしごとがあつてすごいとおもつた。ほかの車にはどなしごとがあるのか気になったから、しらべてみたい。

9 指導と評価の計画（全 12 時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・ 評価方法 等
一	1 3	<p>学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズをして、自動車についての経験を想起する。 ・範読を聞き、自由に感想を交流する。 ・児童の疑問や感想から学習内容を定め、学習計画を立てる。 				
二	4 8	<p>「じどう車くらべ」を読み、3つの事例を比較しながら内容を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例の説明の仕方を比較し、文章の全体構成を捉える。 ・それぞれの事例の内容をカードにまとめる。 	○			<p>[知識・技能]</p> <p><u>ワークシート・発言</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
	9 10	<p>乗り物に関する本を読み、調べたことを紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の調べたい乗り物を決め、本を使って調べる。 ・大事な言葉に気を付けて読み・調べたことをカードにまとめる。 		○		<p>[思考・判断・表現]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。
三	11 (本時)	<p>教材文や並行読書の内容と、自分の体験とを結び付けて分かったことや思ったことを文章にまとめ、交流する。</p>		○	○	<p>[思考・判断・表現]</p> <p><u>ワークシート・発言</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <p><u>児童の様子</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習の見通しをもって、感じたことやわかったことを文章にまとめようとしている。
	12	<p>クイズ大会を行い、これまでに学習して分かったことや気付いたことについて振り返る。</p>				

10 本時の学習

(1) 本時の目標

乗り物について書かれた本や文章を読み、自分の体験と結び付けて分かったことや思ったことを文章にまとめ、交流することができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
<p>○前時の振り返りをする。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p> <p>○自分の調べた乗り物について分かったこと、思ったことをまとめる。</p> <p>○まとめたことを交流する。</p> <p>○本時のふりかえりをする。</p> <p>○次時の見通しをもつ。</p>	<p>○前時に調べた乗り物を想起させる。</p> <div data-bbox="472 591 1366 658" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>じぶんの しらべた のりものについて かんそうをまとめ、こうりゅうしよう。</p> </div> <p>○何を書くかを明確にするために、①調べて分かった乗り物の仕事と役割、②自分の知っていた乗り物の仕事と役割や自分のこと、③調べて分かったことと自分の知っていたことから分かったこと、④自分の感想の項目を板書する。</p> <p>◆教科書に載っていた自動車の特徴と、自分が調べた自動車を比較させる。</p> <p>◆自分の調べた乗り物について、一番驚いたところを聞き出す。</p> <p>○交流してみて分かったこと、思ったことをノートに書かせる。</p> <p>○自分の感想と友達の感想を比べながら交流をさせる。</p> <p>○自分の調べた乗り物について友達と比較し、似ているところや違いに気付いたことについて感想をもたせる。</p> <p>○単元のまとめを行うことを伝える。</p>	<p>[思考・判断・表現] ワークシート・発言</p> <p>・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] ワークシート</p> <p>・進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習の見通しをもって、感じたことやわかったことを文章にまとめようとしている。</p>

(3) 板書計画

① きょうかしよからわかったこと ② じぶんのしっていたこと しらべてわかったこと ③ ①と②のしているところや ちがうところ ④ かんそう ふりかえり	じどう車くらべ ④め自分のしらべたのりものについてかんそうをまとめ、交りゅうしよう。
--	---

II 指導の実際


(1) 指導上の工夫

ア. 考えの形成のための手立て

教材に出てくる乗り物同士を比較する活動を複数回取り入れることで、自動車のどのようなところを比較すればよいかの視点をもって比較することが出来るようにした。また、毎時間、授業の終わりに振り返りや感想を書かせることで、自分のことを振り返ったり、知ったことに対しての感想をもったりすることができるようにした。

イ. 単元のゴールの共有

児童の意見を取り入れ、本単元のゴールを「じどう車クイズをしよう」と設定した。単元のゴールを児童が決めているため、学習の目的意識が生まれ、意欲的に学習に取り組めるようにした。また、学習計画を児童と一緒に作成したことで、見通しをもって学習に取り組めるようにした。



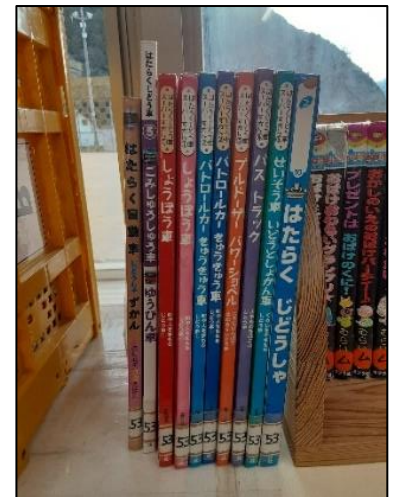
7	6	5	4	3	2	1	じどう車くらべ けいかくひょう
	のりものカードにかく	すきなじどう車の「しごと」をしろ。	はじい車の「しごと」「つくり」	クレーン車の「しごと」「つくり」	トラックの「しごと」「つくり」	バスとじょうよう車の「しごと」「つくり」	

ウ. 学習環境を整える

町立図書館と連携し、働く自動車についての本コーナーを教室内に設置した。また、単元が始まる前から設置することで、あらかじめ自動車についての興味を喚起できるようにした。

エ. 考え聞かせの取り組み

働く自動車の本で考え聞かせを行った。車の形や仕組みについて児童が気付いたことは自由に発言させながら読み、働く自動車についての興味をもつことができるようにした。また、「どうしてこのつくりになっているのかな。」などの問いかけをすることで、自動車を比べる際の視点を養えるようにした。



(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

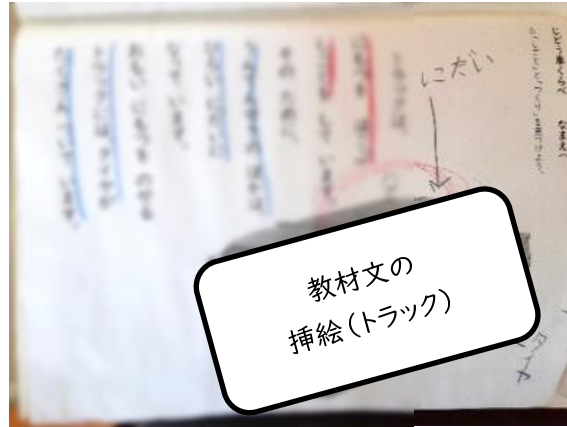
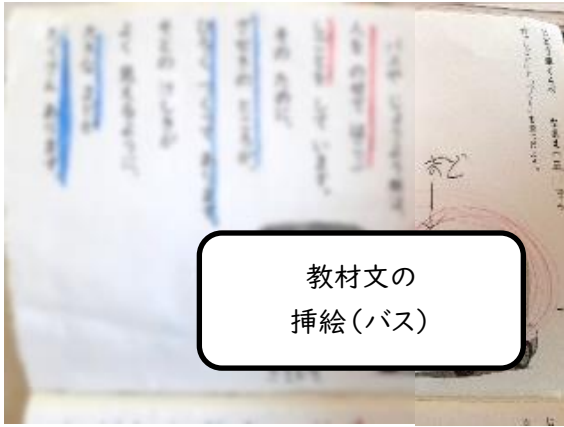
1. 「しごと」と「つくり」の色分け

児童の実態より、教材文の構成が「しごと」と「つくり」で分けられていることに気付にくい児童が多いと考えた。そのため、「しごと」は赤色、「つくり」は青色で色分けをし、視覚的に教材文の構成が分かるようにした。また、色分けされていることから、「しごと」が先に書かれており、そのための「つくり」になっていることに気付くことができた。それにより、教材文の事例がどのような順序で説明されているのかが視覚的に分かりやすくなり、自分が調べた車について書く際も同じ順番で書くことができた。

2. ワークシート

「つくり」がどの部分のことを指しているのかを具体的にイメージすることが難しいと考え、本文と挿絵のみのワークシートにし、直接書き込めるようにした。「つくり」を明確に理解することにつながった。「つくり」が明らかになったため、他の車と比較することが容易になり、その車にしかない「つくり」の特徴をつかむこともできた。

さらに、ワークシートにしたことによって、必要な情報のみに視点をしぼることができたため、普段は文章を読み取ることが難しい児童も、自信をもって取り組むことができた。また、比較の際にもノートに貼ったワークシートを見て比べることができるため、比較がしやすかつまずきが少なかった。



12 評価の実際

(1) 評価の具体

考えの形成の評価では、本文と自分の文章を比較し、感想をもつことができているならば「おおむね満足できる」状況(B)とした。

児童 C については、本文と自分の文章を比較し、共通点や相違点を見付けることができていることから、「おおむね満足できる」状況(B)とした。

児童 A と児童 B については、教科書から得た知識と経験(自分が調べて知ったことも可とした。)を比較したうえで自分の感想をもっているとした。さらに、③や④の記述の視点として、「『しごと』のための『つくり』」になっていることを理解し、感想として表現できていると判断し、「十分満足できる」状況(A)とした。

【注釈(ワークシートの様子)】 下線部→評価の基準

児童 A(「十分満足できる」状況(A)と判断した例1)

① 教科書からわかったこと

クレーン車はおもいにもつをつり上げるしごとをしている。そのために、じょうぶなうでが のびたりうごいたりするようにつくってある。そして、じょうぶなうでもある。

② 自分が知っていること、しらべて分かったこと

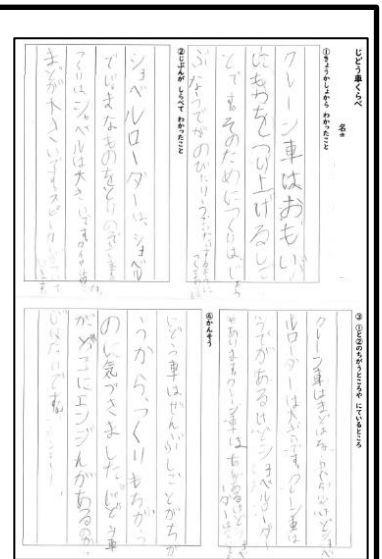
ショベルローダーは、ショベルでじゃまなものをとりのぞきます。そのために、大きなショベルがついています。ショベルがついているうではうごきます。タイヤは4つついています。

③ ①と②のにているところやちがうところ

クレーン車とショベルローダーはうでがついているけどかたちがちがう。クレーン車にはショベルはついていない。クレーン車にはあしがあるけど、ショベルローダーはあしはない。

④ かんそう

じどう車はぜんぶしごとがちがうからつくりもちがうのに気づきました。ほかの車もしらべてみたいとおもいました。



児童 B(「十分満足できる」状況(A)と判断した例2)

① 教科書からわかったこと

クレーン車は、おもいにもつをつりあげるしごとをしています。そのために、じょうぶなうでがのびたりうごいたりするようにつくってあります。

② 自分が知っていること、しらべてわかったこと

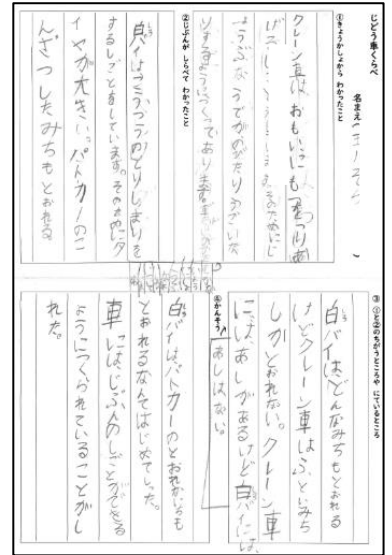
白バイは、こうつうのとりにしまりをするしごとをしています。そのためにタイヤが大きい。パトカーのこんざつしたみちもおれる。パトロールカーは、よくまえがみえるようにまえのまどがおおきくなっています。

③ ①と②のにているところやちがうところ

白バイは、どんなみちもおれるけど、クレーン車はふといみちしかとおれない。クレーン車にはあしがあるけど白バイにはあしはない。

④かんそう

白バイは、パトカーのとおれないみちもおれるなんてはじめてした。車にはじぶんのしごとができるようにつくられていることがしれた。



児童 C(「おおむね満足できる」状況(B)と判断した例)

① 教科書からわかったこと

バスはひとをのせてはこぶしごとをしていて、そのためにぎせきのところがひろくつくってあり、そとのけしきがよくみえるように大きなまどがたくさんある。

② 自分が知っていること、しらべてわかったこと

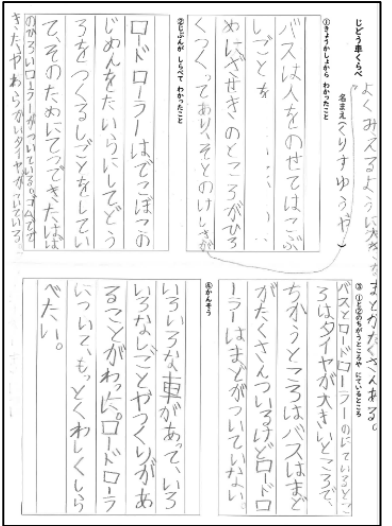
ロードローラーは、でこぼこのじめんをたいらにしてどうろをつくるしごとをしていて、そのためにてつでできたはばのひろいローラーがついている。ゴムでできたやわらかいタイヤがついている。

③ ①と②のにているところやちがうところ

バスとロードローラーのにているところはタイヤが大きいところで、ちがうところはバスはまどがたくさんついているけどロードローラーはまどがついていない。

④かんそう

いろいろな車があって、いろいろなしごとやつくりがあることがわかった。ロードローラーについて、もっとくわしくしらべたい。



(2) 児童の評価

「十分満足できる」状況(A)の児童は4名、「おおむね満足できる」状況(B)の児童は13名、「努力を要する」状況(C)の児童は2名であった。

13 成果と課題

(1) 成果

ア.「考えの形成」

毎時間、授業の終わりに視点をもって振り返らせたことは効果的だった。また、気付きを交流したことで、自分では気付かなかった考えを知る児童が増え、思いをもつことができる児童が増えた。本単元を通して、自動車について自分が調べたこと、それまで自分がもっていた知識を比較して、その似ているところや違いに気付くことによって、「考えの形成」をしやすくなったと考える。

イ. 学習意欲の向上

第11時で感想を書いた際に、ほとんどの児童が「ほかの車のしごととつくりについてもしらべてみたい。」と述べていた。このことから、児童が意欲的に学習に取り組むことができたことが分かる。学習環境を整え、自動車を身近に感じることができたことから、このような意欲につながったと考える。また、並行図書をいつでも手に取りやすい場所に置いていたことにより、他の自動車への興味や関心が高まったのではないかと考える。

ウ. 説明的な文章の構造の定着

色分けをしたり、学習の流れをパターン化したりしたことにより、ほとんどの児童が「しごと」と「つくり」について理解し、説明的な文章の構造をつかむことができた。また、「しごと」のための「つくり」になっていることに気付くことができ、調べ学習の視点を明確にすることができた。そのため、ほとんどの児童が自分の力で図書から「しごと」と「つくり」を調べることができた。

(2) 課題

ア. 比較の視点

第11時で「考えの形成」を行った際、比較したことと感想が結び付かない児童がいた。また、比較の視点が明確になっていなかったため、「しごと」や「つくり」という視点で比較をすることができなかった。考え聞かせを行った際に、「しごと」と「つくり」に着目させたが、本時の活動と結び付けることができなかった。

イ. 「しごと」のための「つくり」に気付きにくい児童への手立て

調べ学習の際に、じどう車の「つくり」を「まどがついている。」や「タイヤがついている。」など、「『しごと』のための」つくりであるという視点で語や文を見付けることができていない児童もいた。「つくり」を調べる前に、その車の「しごと」について十分に理解させたうえで「つくり」について説明している語や文を選び出せるようにする必要があった。

ウ. のりものカードの構成

今回使用したワークシートは、「しごと」と「つくり」に分けるようになってはいたが、「しごと」のための「つくり」であることが理解できる構成になっていなかった。「しごと」と「つくり」のつながりを理解するために大事な言葉である「そのために」という言葉も抜けてしまっていた。そのため、「しごと」とはつながらない「つくり」を書き抜いていてもなぜこの「つくり」ではいけないのか、児童自身で確かめることができず、一人一人に教師の支援が必要になってしまった。



(3) 今後に向けて

ア. 比較の視点を養うために

今回の実践では、「しごと」のための「つくり」に気付き、比較することが難しい児童がいた。そのため、「考え聞かせ」を行う際は、「なぜこの自動車はこのようなつくりになっているのか。」などと投げかけ、比較の視点を養えるようにする必要はある。また、文章の読み取りの際に「そのために」という言葉に着目させ、「しごと」のための「つくり」になっていることに気付けるようにする必要はある。そうすることで、自分が調べたことと、それまで自分がもっていた知識を比較して、その似ているところや違いに気付くことができ、「考えの形成」をしやすくなると考える。

イ. ワークシートの工夫

理解させたい内容や目的に沿ったワークシートを作成する必要がある。児童の実態に応じて、視覚的に理解できるものや、振り返って見た時に学習の内容が想起されるようなワークシートが望ましいと考える。

ウ. 「読むこと」で身に付けた力と「書くこと」で身に付けた力を関連付けた指導

本単元では、説明的な文章を読み解き、わかりやすく説明するための文章構造の基本を学んだ。今回実際に児童が調べた自動車について乗り物カードを作成するなど、書くという活動も取り入れてきた。ただし、文章構成を知ったからと言って、すぐに分かりやすく文章を書くことができるわけではない。今後、生活科や国語科等で説明する文章を書く際に、本単元の学習を想起させるよう指導者が意図的に働きかけを行いたい。

エ. 文章を読むときの視点の明確化(視覚化)

本単元では、文章の内容を色で整理し、書かれている事柄の順序など情報と情報の関係性について、視覚化することで、事例の構成をとらえやすくするなどの工夫を行った。読み取りにつまずきのある児童にとっては、有効な支援であるため、どこをみて比べればよいのかが分かりやすくなった。子どものつまずきに着目し、必要な手立てを講じていく必要があると考える。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
はたらくじどう車スーパーずかん(全5巻)	小賀野 実	ポプラ社
はたらくじどう車	松澤 正二	ポプラ社
はじめてのずかん はたらくくるま	小賀野 実	高橋書店
はたらくじどう車 しごととつくり(全5巻)	小峰書店編集部	小峰書店